

アイデアソンの実施報告

日時 2018年3月29日(木) 10:00~16:30

場所 佐世保高専 多目的教室、ICT5

参加学生 1~4年生 32名(学科学年バラバラの4名×8グループ)

講師 石川高専 電子情報工学科 小村良太郎准教授

出席者 大阪鋼管(株) 坂根毅社長、本城部長

(株)亀山電機 北口社長(本校OB)、(株)日本エコネット 三谷社長(本校OB)

長崎ブレークスループプロジェクト 元代表 浦さん、現代表 小山さん

本校出席者 校長、部長、川下、牧野、長嶋、松山、坂口、城野、前田隆、濱田、

企画係 岩永、白浜

<テーマ> 「ボヤキを解消しよう!!!」

<概要> 学生自身の身の回りで解決したいことや他人のボヤキで解決したいことなど具体的な事例を通して、身の回りにおいて改善したいことや便利なモノの創出し、うまくいけば実際にやってみる

<佐世保高専としてのアイデアソンの目的> アイデアソンを通して、学生自身の身近なことを問題として取り上げ、学年学科の垣根を越えてディスカッションすることにより、通常の授業では出来ない学生発のモノづくりに至るまでの過程を体験するため

<当日の流れ>

校長先生ご挨拶

・午前の部(ぼやきの分析)

(1)アイスブレイク (2)「ぼやき」の書き出し (3)「ぼやき」の分類 (4)「ぼやき」を解決するとどうなるか? (5)「ぼやき」に関する「問い」づくり (6)「ぼやき」に関する「問い」への回答 (7)発表

昼食(グループのテーブルに出席者が混じって昼食)

・午後の部(ぼやきの解決)

(1)「ぼやき」の分類 (2)解決の「手段」の洗い出し (3)「ぼやき」と「手段」の整理 (4)「ぼやき」解決のアイデアづくり (5)アイデア発表① (6)アイデア決定 (7)アイデアブラッシュアップ&発表資料作成 (8)アイデア発表②

アイデア発表を審査(審査委員 坂根社長、北口社長、浦さん&小山さん)

審査結果発表、講評

今後の予定について説明

長崎ブレークスループプロジェクトの紹介

<審査委員コメント>

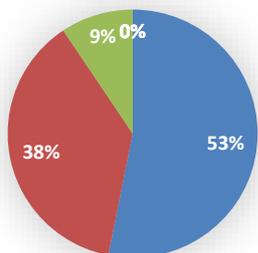
- ・チャレンジしてほしい。君らが作りたいたいと思うものがあれば支援する。(坂根社長)
- ・もっとおもしろいアイデアを。プレゼンの力ももっと向上させるべき。亀山電機主催のアイデアコンテストに応募してほしい。(北口社長)
- ・遠回りをしてもいい。遠回りをする方が早い場合もある。(浦さん)





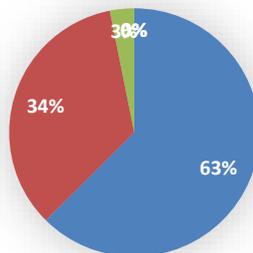
<実施後のアンケート>

(1) アイデアソンの進め方が理解できた



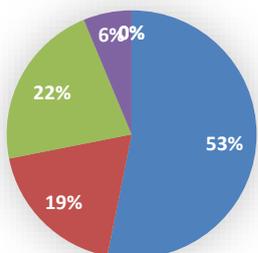
■ 5(高評価) ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1(低評価) ■ 無回答

(2) チームで協力することができた



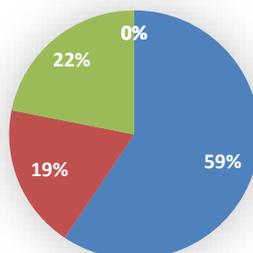
■ 5(高評価) ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1(低評価) ■ 無回答

(3) 積極的に意見を述べる事ができた



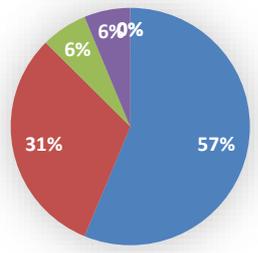
■ 5(高評価) ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1(低評価) ■ 無回答

(4) アイデアソン全体を通して満足できた



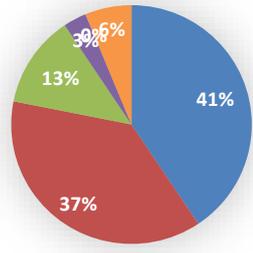
■ 5(高評価) ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1(低評価) ■ 無回答

(5) 今回出たアイデアを実現させたい



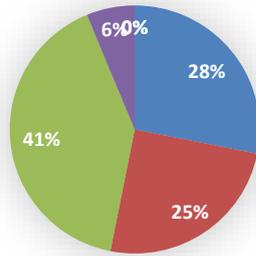
■ 5(高評価) ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1(低評価) ■ 無回答

(6) またこのような機会があれば参加したい



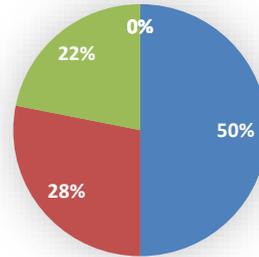
■ 5(高評価) ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1(低評価) ■ 無回答

(7) 学内学外を問わず、アイデアコンテストなどがあれば出場したい



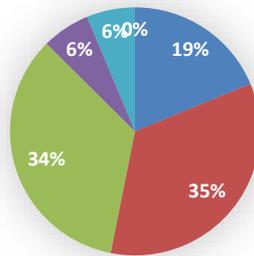
■ 5(高評価) ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1(低評価) ■ 無回答

(8) 新しい「もの」をつくりたい



■ 5(高評価) ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1(低評価) ■ 無回答

(9) 支援やサポートがあれば、自分で起業したい



■ 5(高評価) ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1(低評価) ■ 無回答

<アンケート自由記述のコメント ※主なものを抜粋>

- ・今までで一番自分の心を動かすイベントだった（1年生）
- ・最初は緊張でうまく班の人達と話をすることができなかったが、だんだん話が多くなりとても楽しい経験を得ることができた。次回またある時は参加したい。（2年生）
- ・知らない人と話してみるいいきっかけになったのでよかった。意見を実現させていく手法の体験ができた。（2年生）
- ・他学科、他学年、先生とラフに楽しく話して核心的なアイデアが出せた。行動に出れば案外実現できるかも？（2年生）
- ・もう少し時間をかけてアイデアを掘り下げていくともっといい物ができると思うのでまた参加したい。（2年生）
- ・色々な人のボヤキがきけてとても面白かった。自分が発表した「基金箱」は前々からやりたいて思っていたので言えて良かった。たくさんアイデアを出し合って深め合っていくのは初の体験だったので興味がわいたしまた参加したいと思った。（2年生）
- ・アイデアソンへの参加は自分の苦手な部分であるチームで協力して考えることと発表することのいい経験になったと思います。正直にいうと今回のアイデアソンは自分の考えや意見をあまりチームで共有できなかったと思います。このことで自分のコミュニケーション能力の低さを思い知らされました。次回の改善点としたいです。（2年生）
- ・ただの会議だと意見を言いにくく自由な発想が生まれにくいと思いますが、アイデアソンのやり方だと楽しみながらふと生まれるアイデアがたくさん出るし、本当にみんなが必要としている問題を様々な視点から考えることができ良かったです。（2年生）

- ・最初はまったくアイデアが浮かばなかったけど、色々聞いているうちにたくさんのボヤキが出てきてそれに対するアイデアも出てきて楽しかった。(2年生)
- ・最初は“ボヤキ”すらあまり思いつかなくて不安だったけど、やり始めるとたくさん意見が出てきて、発言もできてとても楽しいグループワークができました。わかりやすい進め方だったので思っていたより簡単でした。他のグループの発表を聞くのが一番楽しかったです。貴重な経験でした。また参加したいです。(2年生)
- ・今回初めてアイデアソンに参加したが、新たなアイデアを生むことの難しさを感じ、それと同時に楽しさを感じた。また、他人の意見から新たな視点の立場をみることができ、協力することによるアイデア出しの重要性を感じた。(3年生)
- ・アイデアソンの流れがわかってよかった。貴重な体験だと思うのでこのような場をもっと作ってほしい。春休みだと家から来るのが大変なのでゴールデンウィークやシルバーウィークにやれば参加人数が増えてもっと様々なアイデアが出て良いものになると思う。(3年生)
- ・自分がいかに日々のボヤキを見逃しているかがわかった。今の生活、日常にもっとハングリーな精神でいるべきだと思う。(3年生)
- ・学年学科がバラバラの人たちと交流できる機会に参加できて楽しかった。短時間でプレゼンの準備をするのが初めてだったので良い経験になった。(3年生)
- ・ボヤキから解決策まで出てくる過程が面白かった。いろいろな案が出ていてぜひ実現してほしい。(3年生)
- ・最初は自分の友達とかだけでグループを作って考えるものだと思っていたが、他学年や他学科の人と一緒に考えたりすることでいろんな発想ができた。楽しかったし、グループの和や絆も生まれる気がした。(3年生)
- ・特にアイデアがあって参加したわけではなかったけれど、実際に行ってみるとアイデアの出し方を教えてもらって進めることができた。自分のアイデアを製作するには実現性が低かったが、他の班にも色々なアイデアがあって面白かった。(4年生)
- ・アイデアを出し、解決に至るまでの経緯に、方法があるとは知らなかった。この様な方法だと、独自の発想を持っている人でなくても、ボヤキを解消することができるなと思いました。(4年生)
- ・初めてこういったイベントに参加して、みんなと考えを出しながらアイデアを具現化していくことの楽しさを改めて感じる事ができました。ほぼ初対面の子達と最初はぎこちなかったですが、時間が経つにつれ打ち解けることができ、非常に良い機会になりました。(4年生)
- ・質問をする時間が少なくまだまだ聞きたいことがあった。電子化はやっぱりすごいなと思った。(4年生)
- ・ぼやきの案は偏ると思っていたけど、思っていた以上に様々な種類の意見があっておもしろかったです。自分の班で出た意見を他の班の人に考えてもらうのはとても良いと思いました。(4年生)
- ・学年、学科がそれぞれ違い、いきなり打ち解けることは難しかったと思う。しかし、視点の違うところから話もいろいろと聞くことができ、高専の特色を改めて実感することができた。他の班に全く想像すらしていなかったアイデアもあり、自らのアイデアの幅を広げることもつながったと思う。参考にすべき点は参考にしたいと思う。(4年生)